

道徳

「指導者用デジタル教材」を用いた授業展開例

小学校 第4学年 道徳科 学習指導案

埼玉県川口市立木曽呂小学校
教諭 渡辺 真

主題名 友達だからこそ

教材名 19 絵はがきと切手(1時間)

内容項目 B 友情、信頼

本時のねらい 「友達」に対するひろ子の母と兄の考え方の違いについて話し合うことをとおして、友達とのよりよい関係のあり方について考えを深め、友達と信頼し、助け合おうとする心情を育てる。

指導時期 11月ごろ

「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

1 「思考ツール」や「心情メーター」の活用

「学習者用デジタル教材」と「指導者用デジタル教材」のどちらにも「思考ツール」や「心情メーター」が入っている。4年生という段階を考えると、クラスの実態に応じて「学習者用デジタル教材」を活用して、児童が自らまとめることもできるし、教師が「指導者用デジタル教材」を活用して児童の意見をまとめることもできる。クラスの実態に応じて活用の仕方を変えることができる。

2 「スライド」や「まなびリンク」の活用

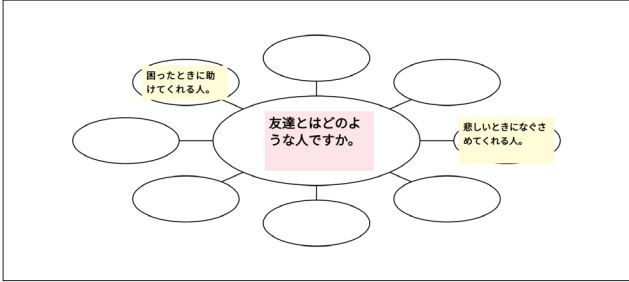
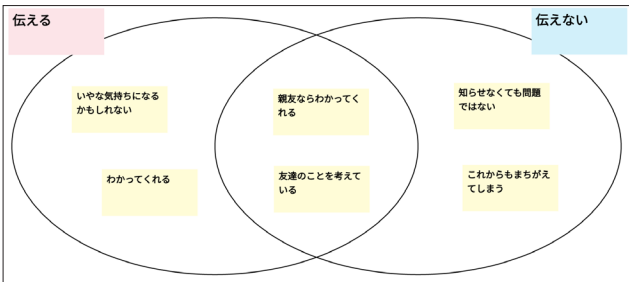
定形外郵便や料金不足など、児童にとってはなじみのない言葉がいくつか出てくる。その際には、教材を読む前や読んだ後に「指導者用デジタル教材」の「スライド」を活用し、その場面に出てきた言葉を確認できるようにする。また、「まなびリンク」から日本郵便株式会社のウェブサイトへアクセスして詳しく伝えることもできる。

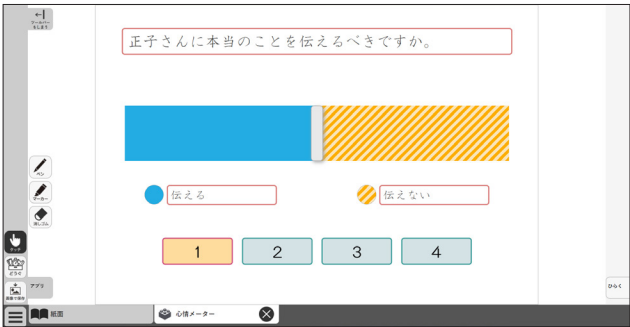
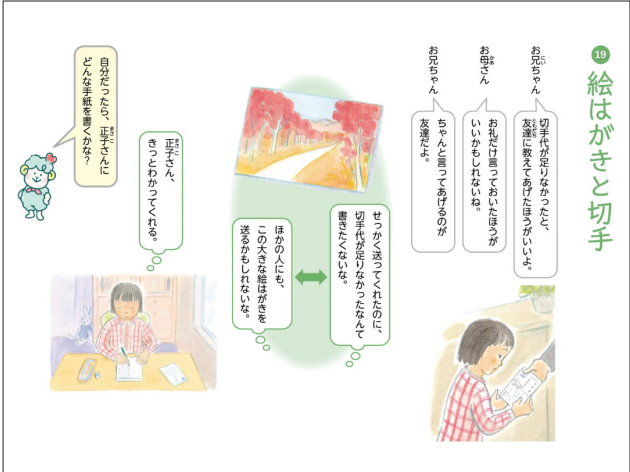
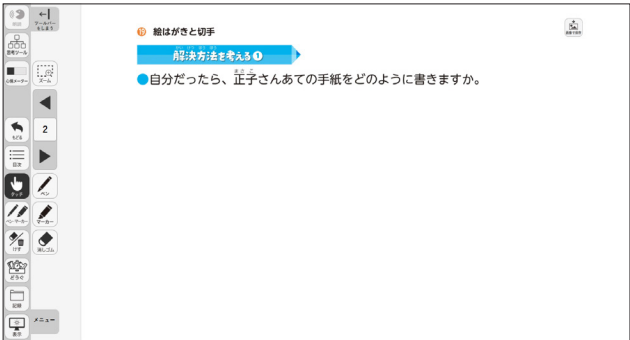
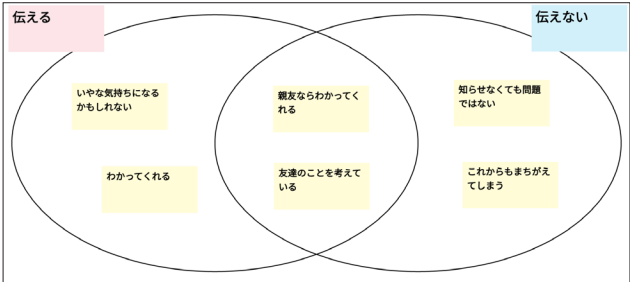
3 「考えるシート」や「ワークシート」の活用

「指導者用デジタル教材」の「考えるシート」を、児童が考えるてだてとして活用することができる。また、考えをまとめる際には、印刷した「ワークシート」に記入したり、「学習者用デジタル教材」の中にある「てびき」に書き込んだりするなど、実態に応じて活用することができる。

本時の展開

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。	

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	1. 友達とはどのような存在なのかについて考える。 T：友達とはどのような人ですか。 C：困ったときに助けてくれる人。 C：悲しいときになぐさめてくれる人。	●考えたことを「思考ツール」の「ウェビング」にまとめる。  ●定形外郵便や料金不足については、わからない児童もいるため、「スライド」を見たり、「まなびリンク」にある日本郵便株式会社のウェブサイトにアクセスし、確認する。  
	2. 問題を見つける。 T：ひろ子は何に迷っていたのでしょうか。また、そのときの気持ちを考えて話し合いましょう。 C：料金不足を教えるか、お礼だけを伝えるか。 C：伝えたら正子さんは怒るだろうか。 C：まちがえたことを教えないでいいのだろうか。 C：友達だったら、どうすればいいのか。	●「思考ツール」を開き、「ベン図」に整理していく。伝える場合と伝えない場合で、どのようなことが起こるのかを整理していくことで、どのようにしていくべきなのかを考えられるようにする。 

	活動内容	デジタル教材の活用
展開	3. 解決方法を考える① T：自分だったら、正子さんあての手紙をどのように書きますか。 C：絵はがきを送ってくれたことにお礼を書く。そして定形外郵便のことについて教えるように書く。 C：「正子さんだからわかってくれると思うから」ということを書いて、料金が不足していたことを書く。	●「ベン図」にまとめられない児童には、「心情メーター」を活用して、どちらの気持ちが大いのかを表現できるようにする。  ●どちらで考えをまとめたとしても、学習支援ソフトウェアを活用して全体で共有する場面を設けていく。 ●考えるためのてだてとして「考えるシート」を活用する。また、考えをまとめる際には「ワークシート」を印刷して手書きしたり、「学習者用デジタル教材」の「てびき」を活用して「ペン」で記入したりするなど、児童が選択できるようにする。   ●「ベン図」を活用してまとめた考えを改めて提示し、正子さんの気持ちを考えられるようにする。 
	4. 解決方法を考える② T：ひろ子さんの手紙を読んで、正子さんはどう思うでしょう。 C：「ひろ子さんは、この先私が困らないようにと考えてまちがいを教えてくれた。」 C：「私ならわかってくれると思って書いてくれたんだな。」	

	活動内容	デジタル教材の活用
終末	5. 考えたことを生かす。 T：友達といい関係でいるために、何が大切なのでしょう。考えを発表しましょう。 C：どんなことでも相手のことを考えて、言い合えること。 C：信頼し合っている友達ならば、相手のまちがいを伝えたとしても、きっとそれを受け入れてくれる。	●導入で考えた「友達とはどのような存在なのか」について、学習してからの変容を「ウェビング」に追記していく。変容があった児童には学習支援ソフトウェアを活用してもらい、クラスで共有する。

「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

●個別最適な学びと協働的な学び

料金をまちがえてしまった正子さんに、本当のことを伝えるか、伝えないかで迷っているひろ子さんの心の中を考える場面では、正子さんに伝えるか、伝えないかを「ベン図」にまとめながら、それぞれの行為を行ったときの結果について考えられるようにする。「ベン図」にまとめることができない児童には、「心情メーター」を活用し、自分だったら伝えるか、伝えないかを考えさせ、理由について考えられるようにする。児童の実態に応じて使えるツールを選択することができるようにする。また、一人一人がタブレットを用いて「学習者用デジタル教材」を活用することも想定できるが、ペアで一台やグループで一台を使うなど、台数をあえて限定することで協働的に考えさせていくこともできる。

●「スライド」の活用

「指導者用デジタル教材」の中には「スライド」が収録されている。定形外郵便や料金不足などの言葉を児童に説明するのに活用したり、注目させたい場面の「スライド」を児童へ提示したりすることもできる。黒板が児童の考えや場面絵などで埋まっているときには、第二の黒板として大型テレビを活用することができる。その際、「指導者用デジタル教材」の「スライド」はとても効果的に活用することができる。

●「考えるシート」や「ワークシート」「てびき」の活用

「指導者用デジタル教材」には、児童の考えをアウトプットするためのコンテンツが豊富に収録されており、教師がクラスの実態に応じて活用の方法を考えることができる。「考えるシート」を児童が考えるためのてびきとして活用したり、「ワークシート」に書いたり、「学習者用デジタル教材」の「てびき」を活用してまとめたりするなど、それぞれの使いやすさに応じて選択することができる。そうすることで、いっそう児童に個別最適化した学びを提供することができる。